

平成29年度 病虫害発生予察情報 注意報 第2号

平成30年3月14日
発表：福島県病虫害防除所

- 1 対象作物：イチゴ
- 2 病虫害：ハダニ類
- 3 対象地域および発生量：県内全域 多い

～イチゴハダニ類の発生が多くなる見込み～

【予報の根拠】

- (1) 本年3月上旬の巡回調査では、発生ほ場割合は90%（平成27年度57.8%）、寄生株率は36.6%（平成27年度14.5%）と、過去10年間で発生ほ場割合、寄生株率ともに最も高かった（図1、図2）。
- (2) 平成30年3月8日発表の1ヶ月予報によると、気温は平成27年度並みまたは高い予想であり、ハダニ類の増殖に適した気象条件が続くと考えられる。



写真1 ナミハダニ

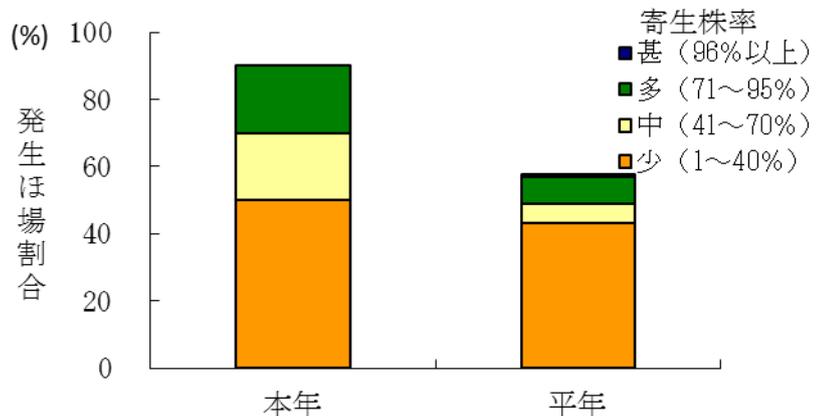


図1 ハダニ類の発生状況（3月上旬）

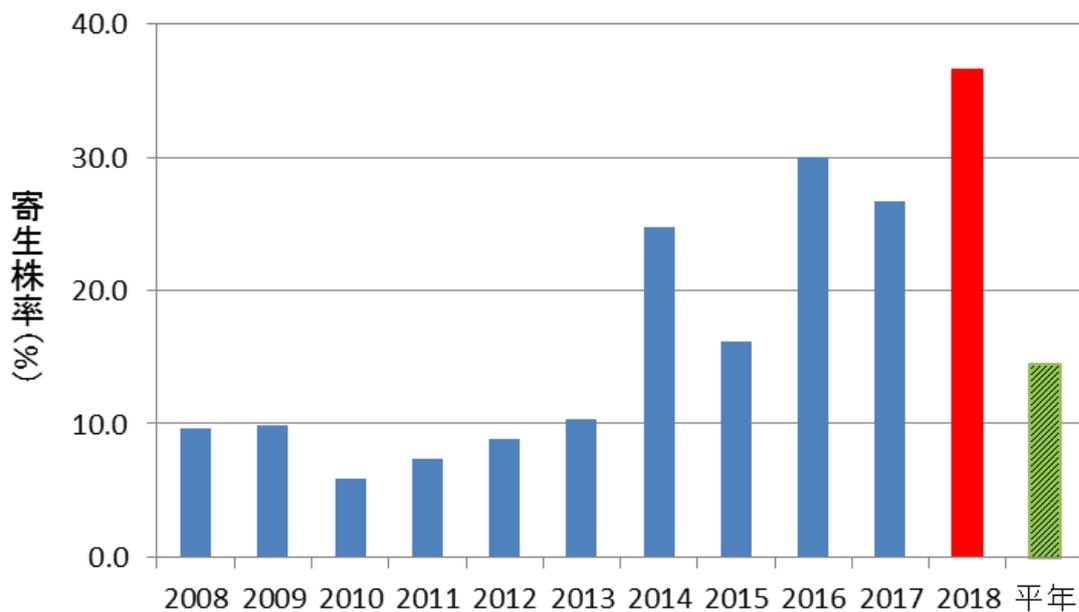


図2 ハダニ類の寄生株率の年次比較（3月上旬）

【防除対策】

- (1) ハダニ類は葉の裏に多く寄生するので、薬剤は葉裏まで十分かかるよう丁寧に散布する。
なお、茎葉が繁茂している場合は古葉を適葉して防除を行う。
- (2) 既に多発しているほ場では、1回の薬剤散布のみでは薬剤の散布むら等で効果が不十分となる場合があるので、効果を確認しながら複数回散布する。
- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、薬剤の効果を確認し、系統の異なる薬剤をローテーション散布する(表1)。
- (4) 天敵資材(ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ等)を使用しているほ場では、ハダニ類の発生状況に応じて、天敵に影響の少ない薬剤を選択する。
- (5) 薬剤散布の際は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。
- (6) 農薬使用基準を遵守し、適正な農薬散布作業の実施と安全で効果的な防除に努める。

表1 ナミハダニに対する薬剤の効果

供試薬剤	イチゴ	キュウリ	キュウリ	キク	イチゴ	イチゴ	イチゴ
	2001年	2002年	2003年	2004年	2008年	2013年	2015年
アーデント水和剤	△	△	△	△	—	△	—
アフーム乳剤	—	—	—	—	◎	—	—
カネマイトフロアブル	—	◎	◎	◎	◎	◎	◎*
コテツフロアブル	△	△	○	△	—	△	—
コロマイト水和剤	◎	◎	◎	◎	◎	△	△*
スターマイトフロアブル	—	—	—	—	—	—	△*
ダニサラバフロアブル	—	—	—	—	—	○	△*
ニッソラン水和剤	△*	—	△*	—	—	—	—
パロックフロアブル	◎*	—	◎*	—	—	—	△*
ピラニカEW	△	△	△	△	—	△	—
マイトコーネフロアブル	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎*

注1)◎:効果高い、○:効果が劣る場合あり、△:効果が劣ることが多い、—:未検定

(◎:すべての個体群で死虫(卵)率90%以上、○:死虫(卵)率90%以上の個体群が5割以上、△死虫(卵)率90%以上の個体群が5割未満)

注2)※は、殺卵効果を検定。

●情報内容への質問や要望は、福島県農業総合センター安全農業推進部発生予察課
(病害虫防除所)まで御連絡ください。

TEL 024-958-1709 FAX 024-958-1727